

## 令和6年度 第1回 運行管理高度化ワーキンググループ 議事概要

【日時】令和6年11月6日（水）14：00～16：30

【出席者（委員）】伊藤委員、今井委員、上田委員、大橋委員、小田切委員、小野委員、  
加藤委員、酒井委員、高橋委員（代理：泉様）、吉村委員（50音順）

【出席者（オブザーバー）】永嶋様

議事次第に沿って事務局から資料を説明後、意見交換が行われた。

なお、委員から出された主な意見は以下の通り。

### 事業者間遠隔点呼について

- 資料において「委託者／受託者」「委託側／受託側」「委託先／受託先」と様々な呼称で表記されているが、同じ意味なら統一したほうがよいのではないか。
- 事業者間遠隔点呼は、「受委託点呼」と「遠隔点呼」が掛け合わされた点呼であるといえる。現在、貨物運送事業者間で実施が可能な受委託点呼（共同点呼）は、基本的に対面での実施のみを認めており、実施場所と委託営業所の車庫の距離は5km、実施時間は連続16時間/日以内と制限がある。事業者間遠隔点呼を使うことでこのような制度は、不要になるのではないか。
- 事業者間遠隔点呼において、アルコール検知器が陽性を示した場合等、乗務可否を機械的に判断できるのであれば、受委託点呼やIT点呼で定めている実施場所や実施時間の制限は不要になりうると考えられる。そのため、受委託者の責任について整理し、従前の制度で定めている要件をどこまで維持すべきか検討すべきである。
- 先行実施は、グループ会社をはじめとして、ある程度従前から繋がりがある事業者同士が実施している点を念頭に置き、制度を検討すべきである。一方、従前から繋がりのない事業者同士でも安全に点呼が実施できるよう、様々な組み合わせの先行実施がされることを期待する。
- 受委託の契約は書面で締結されるため、より多くの事業者の活用を促すためには、契約の雛形等を整備することが有効である。加えて、体温、血圧の値、その他必要事項（常備薬の服用等）の情報を委託者が受託者へ提供するにあたり、運転者からの同意を得る書面等も必要となるだろう。
- 体温、血圧の値、その他必要事項（常備薬の服用等）について、実際にどのような情報を共有しているのか、先行実施事業者から聞いてほしい。
- 体温・血圧の測定は、令和6年度の先行実施の要領で新たに明示された。一方、令和5年度から継続して実施している事業者もあり、先行実施の開始タイミングによって測定要否が異なっているため、要件検討に当たり、事業者へヒアリングを行い、比較すると良いのではないか。
- 委託者と受託者の間の事故等の責任分担について、基本的に委託者が負うという思想であると認識している。例えば体調不良の運転者に出庫許可を下した後

事故を起こした場合に、行政上の責任は委託者に帰責する理解で良いと思うが、民事では受託側も共同不法行為として責任を負う可能性がある点に留意が必要である。

- 事業者間遠隔点呼が約 7800 回実施されているとあるが、このうち乗務可否を悩んだ件数を把握することが重要である。また、その際の判断理由や実際のやり取りも把握できると良い。
- 「1 か月に 1 回は対面等で当該運転者と直接会話すること」について、運転者の帰属意識が個人によって差異があるとは思いますが、そのような点も考慮しつつ、適切な頻度を検討すると良いのではないかと。

### 業務前自動点呼について

- 点呼機器が中断と判断した場合、運行管理者が遠隔地から画面越し等で再確認・判断することは難易度が高いと思っている。顔色の確認等、対面だからこそ適切な判断ができていた部分もあるのではないかと。運行管理者が実施した対応について、その内容を蓄積することが必要である。
- 機器に全てを任せる使い方だけでなく、運行管理者が横にいて、機器も使いつつ、人にしか出来ないコミュニケーションや微妙な判断をする方法も積極的に取り入れていいのではないかと。
- 先行実施の運用上の遵守事項の「1 か月が経過した後は、可能な限り運行管理者が立ち会わずに業務前自動点呼を行うこと」という表現について、立ち会いが悪いことである、との誤解が生じないように留意した方がよい。
- 業界全体の安全性の向上のためには、人手不足に悩む中小事業者に自動点呼を普及させることが重要である。
- 乗用において先行実施の申請がないのは、通常、点呼実施時間が決まっており、集団で点呼することが多いため、業務前自動点呼が効率化にはつながりにくいといったことが考えられるのではないかと。先行実施事業者、特に中小事業者が、感じているメリットを知りたい。
- 先行実施が始まってからまだ時間が経っていない状況ではあるものの、申請実績が業態（種別）の間で差がある。先行実施の申込がない業態について、その理由を探ることも必要である。

### 運行管理業務の一元化について

- 複数営業所の運行管理業務を集約営業所で実施するにはどのような要件を整備すべきか、改めて課題を網羅的に検討いただきたい。
- 営業所間の距離や、地域的な観点も考慮したほうがよい。

### まとめ

- 今後の進め方について、本日の資料に基づき、座長と事務局で議論しながら進

めていくこととなった。

以上